

2024年7月27日
13:00～16:00

繊維学会 第710回 理事会議事録

1. 確認事項

出席理事 辻井敬亘、濱田仁美、村瀬浩貴、増田正人、松葉豪、中澤靖元、永田謙二、上高原浩、氏家誠司、内田哲也、武野明義、花田朋美、木村睦、巽大輔、神山統光、出口潤子、増森忠雄

欠席理事 末信一朗、道信剛志、大松沢明宏、山崎睦生、小泉聡、清水宏泰、森下美由紀、東城武彦、石澤仁志、香出健司、高崎緑、竹中幹人、櫻井伸一

監事 大田康雄、土田亮、小原奈津子 (順不同、敬称略)

会場 対面開催 (キャンパスプラザ京都 (京都市下京区東塩小路町 939))

辻井会長の司会により、理事 30 名のうち出席理事 17 名、監事 3 名の出席を確認した。過半数の理事の出席があり、定款 36 条により本理事会は有効に成立したことが報告された。なお、本理事会は、対面にて開催し、理事の意思表示は発言や挙手にて決議することが伝えられた。続けて、新理事会発足にあたり辻井会長より挨拶があった。「繊維学会は今年創立 80 周年を迎え、振り返ると学会としては黎明期、創設期、発展期と続き、今は成熟期に位置付けられるのではないかと考える。学術分野も産業界も、更には学会としても安定的な運営ができる状況にあると考える一方で、流れに任せて運営してきてしまった部分もあるのではないかと考える。そうした運営の中で、三学会合併問題など、様々な事が顕在化してきているのがここ数年である。三学会合併問題、その他にも様々な課題はあるが、今後を考えるよい契機と考え、本理事会が一体感を持って、しっかりと運営に努めていかなければならないと考える。ぜひ、忌憚のない、積極的な意見交換を通じて、一体的な運営ができるよう、協力のほどよろしくお願い致します。会長としての期では、透明性を持って繊維学会の将来構想についての議論、三学会合併問題、事務局の基盤整備の 3 本柱に取り組みたいと考えている。何れも独立的ではなく相互的に進めていくべきことであるので、三学会の合併に関係なく、これらを議論しておくことで、繊維学会の将来を見据えた活動につながると考える。理事の皆様とは喧々諤々、今後の学会運営について議論して進めなければと思います。」挨拶に続き、辻井会長が議長となり議事に入った。

2. 審議事項

1) 会員入退会について・・・<資料 1>

7月24日(水)現在の会員数の詳細(正会員数1003名(正会員931名、名誉会員17名、永年会員55名)、学生会員360名、維持会員11団体(増減なし)、賛助会員88団体)学生会員数の大幅な増加は、ISF2024ならびに、秋季研究発表会への参加・発表申込みによるところが大きい。昨年度末に1,000名以下となった正会員についても、新年度以降、順調に新規入会者が増加。

【審議結果】

入退会報告について、異議なく承認された。併せて、理事各位へ引続き会員増強についての協力が求められた。

- 2) 2025 年度 年次大会開催日程ならびに、実行委員長の承認について
日程：2025 年 6 月 11 日（水）-13 日（金）タワーホール船堀
実行委員長：東京工業大学 教授 道信剛志
次期実行委員長について、関東支部からの推薦に基づき、運営委員会での審議を経た結果として道信氏を推薦する旨が村瀬副会長より説明がなされた。

【審議結果】

2025 年度年次大会開催日程ならびに、実行委員長について異議なく承認された。

- 3) 2024 年度繊維学会各賞選考委員会ならびに、募集について・・・<資料 2>
「2024 年度繊維学会賞各賞」選考委員会日程と選考委員選出の件について、学会賞規定・内規を共有し、事務局より説明がなされた。

【審議結果】

選考委員会日程は 2025 年 2 月 15 日（土）とし、選考委員会召集と委嘱については、執行部に一任されることで異議なく承認された。また、理事会終了後を募集開始時期とし、募集内容は HP、学会誌へ掲載して会員へ通知することも併せて承認された。

- 4) 2024 年度講座企画について・・・<資料 3>
応用講座開催日程の件（2025 年 1 月 14 日～24 日頃、オンライン開催予定）
繊維技術講座 休止の件
濱田副会長より近年の講座企画の収支を基に説明がなされた。

【審議結果】

応用講座の開催時期も勘案し、今年度も技術講座を休止とすることについて異議なく承認された。

今後の運用方法、企画名称等の変更については、繊維学会の収益事業変更にあたるのではないかと木村理事の指摘を受け、規定などを再確認した上で、引き続き企画委員会を中心に検討し、変更の際は理事会にて諮ることとした。

- 5) 小島基金リカレント教育支援制度への本年度応募者について・・・<資料 4>
本年度応募者 3 名についての件について、資料 4 を基に説明がなされた。

【審議結果】

村瀬副会長より、運営委員会での 3 名承認の審議結果が伝えられた。理事会でも、応募者 3 名への支援について異議なく承認された。一方、申請書類の内容が統一されていないことについて中澤理事より指摘があった。次年度からは、フォーマットの統一化を図る方向で、運営委員長と事務局にて準備する事とした。なお、各位への通知については、会長名・運営委員長名にて事務局より通知する事で一任された。

- 6) 繊維学会ホームページ管理費値上げについて
2024 年度分のホームページ管理費値上げの件（30,000 円/月々、年間 396,000 円(税込)から 35,000 円/月々、年間 462,000 円(税込)。10 年近く費用が据置であったこと、契約時に依頼していた業務内容からの大幅な業務内容の追加、会員向け情報発信のための HP 更新の頻度増加や SNS 管理、学会誌、JFST Voice など新たなページ増加によるもの）

【審議結果】

過渡期でもあり、現在の業者への委託を継続することで異議なく承認された。今後の状況次第では、新たなプラットフォームの利用など、HPのあり方について検討はHP検討WGなどとも連携して引続き検討していく事とした。

3. 報告事項

1) ISF2024 国際シンポジウムについて・・・<机上配布>

【参加申込について】

- ・7月25日（木）時点の参加登録者数報告
- ・参加申込 Early bird August 31(Sat)まで、参加登録締切 November 22（Fri）

【発表申込について】

- ・口頭発表件数 181 件（目標 150 件でしたので 121%達成率）
- ・ポスター発表件数 151 件（目標 150 件でしたので 100%達成率）
- ・当初の目標であった発表申込件数合計の 300 件を上回る結果となった。
- ・発表申込件数がアンバランスなため、G7, G8, G9 は合同セッションにて実施。
- ・海外からの参加申込みはまだまだ少ない状況である。海外からの参加者増強のため、ITMC, ATC 関係者と組織・実行委員会と継続して協力。最終的には、韓国から 20~30 名、台湾から 10~20 名程度を見込んで活動を継続。

その他、国内外問わず、近隣・知合いへの積極的な勧誘への協力を依頼した。

【スポンサー（展示・広告）について】

- ・Gold スポンサー（展示）14 社申込

（（一財）ボーケン品質評価機構、東洋紡（株）、（一財）カケンテストセンター、（一社）日本繊維技術士センター、日本製紙（株）、明成化学工業（株）、セトラスホールディングス（株）、日本化学繊維協会、富士紡ホールディングス（株）、日清紡テキスタイル（株）、大日精化工業（株）、（株）ミマキエンジニアリング、Spiber 株式会社、（株）NHV コーポレーション）

- ・Bronze スポンサー（広告）3 社申込
（旭化成（株）、（株）クラレ、NETZSCH Japan（株））

- ・一般スポンサー（展示）5 社申込

（NPO 法人繊維技術活性化協会、日本化学繊維協会（2 件）、マイクロ・イクイップメント（株）、京都工芸繊維大学・京都大学ジョイント）

- ・現状の予算案についても共有し、広告などへの協力についても引続き依頼し、組織委員（理事メンバー）へ、参加登録を辻井会長より改めて依頼した。

2) 秋季研究発表会について・・・<資料 5>

・11月28日（木）-29日（金）開催の秋季研究発表会の準備状況について、上高原実行委員長より進捗報告があった。目標発表件数は 100 件程度と定め準備中。併せて、秋研予稿集への広告掲載についても、協力を求められた。

・高校生セッションは、ISF2024 の予定を鑑み、11月16日（土）午後にハイブリッドにて開催する事とした。審査員として、理事各位にもぜひ協力をいただきたい事が伝えられた。

【今後の高校生セッションのあり方について】

今後は高校生セッションについては本部としてサポートしてほしいとの実行委員からの希望が上がっている。若手育成の観点からも、秋研の実行委員が対応するのではなく、学会全体としてサポートしていくことが、学会の看板事業にもなると考える。また、若い頃から学会との接点を持つことも大事であるとする。本件については、継続して検討。

3) 繊維系三学会合併に関する協議について・・・<机上配布>

・前回の繊維系三学会合併に関する協議会（以降、合併協議会）（第4回）の開催について辻井会長より報告された。三学会合併協議会は、各学会の会長、副会長、事務局で様々な検討を進めている。今回の合併協議会では、もし合併した場合にどのような学会になりたいのかを念頭に置いて、議論を進めている。現時点で合併ありきではないが、もう一度、会員の方々にご判断いただく提案ができるかどうか、来年の1月に、まずは理事会で審議いただきたいと考えている。検討していく段階では、理事会だけでなく会員との意見交換会や課題の共有、改善できることは改善し、最終的に理事会としての最もよい案を会員の皆様に提案し、ご判断いただくつもりであること、辻井会長より説明された。

WGのスケジュールは、6月・8月に中間答申、10月最終答申を予定している。中間答申初回は、各WGでどのような議論をしているのかについての報告が主となる。今後は、繊維学会WGメンバー同士でも集まって、意見、情報交換を行いたいと考えている。また、WGメンバーには、オブザーバーとして合併協議会（オンライン）へ参加いただき、忌憚のない意見をいただきたいと考えていること、辻井会長より伝えられた。

【各WGからの中間答申概略について】

事務局検討WG

・学会名、ビジョン、ミッション、定款、役員、理事会、学会運営に対する会員の方々の意見をどのように反映していくのか、支部、研究委員会、税理士法人など、課題の整理中

将来構想検討WG

・ビジョン・ミッション・アクションプラン、各学会の強み、寄せ集めではなく融合できる組織のあり方や認知度の向上を検討中

学会誌検討WG

・学会誌の方針、電子化、学会誌のあり方をどうするのか検討中

論文誌検討WG

・英文誌JFSTのあり方、IFの向上、日本繊維機械学会誌JTEの継続についても意見が出ていることを受け、前回の検討事項を叩き台として検討中

年次大会検討WG

・年次大会の開催方法、日程、内容（セッション）、会場案などについて検討中

催事・研究委員会検討WG

・各学会の活動をベースにしつつ、融合を考え検討中

国際化検討WG

・国際人材ネットワーク、新しい企画、国際会議、中長期展望に基づき検討中

財務検討WG

・事務局問題、会費（正会員、維持・賛助会員）について検討中

・各 WG でどんなことをしたいかが明確になってきた時点で、より詳細に財務検討を行う予定。学会として収支安定、財務基盤について検討（ベストシナリオ、ワーストシナリオ、ベターシナリオの提案）

HP 検討 WG

・現在メンバーの検討中で、発足していない。

【各 WG メンバーからの追加での報告について】

・ビジョンミッション案の具体化について検討中であること、将来構想検討 WG 委員・増田副会長より伝えられた。8月11日（日）に、次回 WG を繊維学会事務局にて開催予定。

・合併した際には、会員の分野が幅広くなるので興味の対象がバランスよく掲載されるような学会誌発行について要検討中であること、また電子化についての意見交換も同時に進めていることについて、学会誌検討 WG 委員・村瀬副会長より伝えられた。また、学会誌の発行費用は財務にも大きく関わってくることから、電子化も見据えて要検討であること、学会誌検討 WG 委員・内田理事からも伝えられた。

・JFST に一本化することが前回の合併の際の WG の結論であったが、今回、日本繊維機械学会から JTE を残す（3誌とする方向での提案）が WG で提案され、繊維学会と日本繊維製品消費科学会の委員は驚いている状況。JTE を無くしてしまうことは忍びない感覚で動いていると推察するが、経済的な面でも、ジャーナルとしての力としても（本来なら JFST に一本化して、IF の向上などジャーナルの力を伸ばすことを考えるべき）、3誌を残すことでのメリットを十分に説明できない。ただ、日本繊維機械学会からの強い意見だったため、WG での判断ではなく合併協議会へ差し戻す形で一任している状況であること、論文誌検討 WG 委員・武野理事より伝えられた。

・合併後の年次大会については、まだ議論できていない状況。開催時期と回数（春秋）について、ここ数回の WG で検討されている。2027 年は、（合併してもしなくても使える会場を手当する必要があることから）関東支部役員と事務局で、適当と思われる会場視察に行く予定（9月）であること、年次大会検討 WG 委員・中澤理事より伝えられた。秋季研究発表会の意義について WG で何度も議題として出されたが、やはり会員の発表機会が大切であることを繊維学会として主張し、開催する方向で議論は進んでいること、年次大会検討 WG 委員・花田理事より伝えられた。

・テキスタイルカレッジなど数多くの講座開催や、運営方法、収支管理など様々な点で繊維学会と他 2 学会の運営方法が異なるので、引き続き議論していく方向。将来的には、関連する研究委員会の統合なども進める必要があるなど、引き続き検討を進めること、催事検討 WG 委員・濱田副会長より伝えられた。

・5月14日（火）に対面開催で WG を開催したがまだ具体的な進展はない。8月中にも（後日8月30日（金）で開催決定）次の WG を開催予定。その際には、今まで国際連携を牽引してこられた各学会の先生方に参加いただき、国際ネットワークに関する今までの経緯など、意見を聞く予定であること、国際検討 WG 委員・木村理事より伝えられた。最終的には、WG として国際ネットワークの再構築などを行なっていきたい。

【財務検討 WG】

合併協議会で維持会員廃止（案）があるが、維持会員名を廃止して全て賛助会員とし、費用をパッケージ化することについてどう考えるか？

- ・維持会員も賛助会員も関係ない、支払う金額しか見ていない。金額の選択が、ランクなのか口数なのか明確であればいい。

- ・ただ、企業理事の一部からはパッケージ化されて、いらぬオプションがついてくるとは望まない。広告データを作るのにも費用がかかるので、効果的に活用したいとの意見があった。費用手続き方法は企業ごとに異なるので、WGで継続審議する。

- ・電子化された場合の広告の価値、あり方についても継続して審議してほしい。

【その他】

- ・合併の有無に関わらず、学会誌電子化についての会員アンケートを実施してはどうか。

- ・各学会の会員規模、予算規模、人件費、学会誌発行費、事務局費など、総会資料から拾うのではなく、比較表などのような形でまとめられたデータを提供いただきたい。

- ・合併した後の予算や経費を明示していない状況で、WGから提案していることが全て実施できるとは思えない。予算も限定される中で実際に実施できるのかわからないまま、どんどん各WGで議論しても意味が無いように思う。合併した後の予算や経費はいつ示されるのか？先延ばしにした段階で、予算案が出てきても、また改めてWGの中で、(限られた予算の中で)何を一番重要とするか議論を再度行う必要が出てくるので時間の無駄では。

→ 現状、様々積み上げて議論している状況。予算・経費についての意見について、次回の合併協議会で辻井会長から話をさせていただくこととなった。

また、次回の繊維系三学会合併に関する協議会(第5回)は、繊維学会が担当学会として、8月29日(木)(ハイブリッド開催)で開催予定。会員説明会の開催時期や合併に関する会員からの意見反映についても引き続き検討していくことが辻井会長より伝えられた。

4) 基礎講座の報告について

- ・「2024年 繊維学会基礎講座」

2024年7月18日(木)、19日(金) オンラインにて開催

- ・参加登録者数 117名(うち講師10名)

- ・各日ともパネルディスカッションを実施、大変活発な意見交換がなされた。

- ・収支については、次回理事会にて報告することとした。

5) 報告・連絡事項

① 東北・北海道支部(支部長 松葉理事)

- ・(主催)(公社)日本化学会東北支部(共催)繊維学会東北・北海道支部

令和6年度化学系学協会東北大会 2024年9月14日(土)~15日(日) 開催予定

② 関東支部(支部長 中澤理事)

- ・関東支部委員の交代が報告

- ・本年度の支部役員会は7月31日(木)に開催予定

③ 東海支部(支部長 永田理事)

- ・中部化学協議会 11月2日(土)、3日(日)に開催予定

繊維学会推薦の招待講演1件は、元信州大学学長・濱田州博先生

- ・繊維研究会 12月6日(金)開催を3学会にて共催を検討中

- ・(主催)(一社)色材協会 中部支部(協賛)繊維学会東海支部

2024年度色材分析講座 2024年9月27日(金) 13:00~16:10(オンライン) 開催

- ④ 北陸支部（支部長 末理事）
 - ・ 繊維学会北陸支部・日本繊維機械学会北陸支部
2024 年度研究発表会 12 月頃開催予定
- ⑤ 関西支部（支部長 上高原理事）
 - ・ 繊維学会関西支部会議&記念講演会報告、見学会実施予定
 - ・ 関西繊維科学賞、奨励賞も公募開始
 - ・ 関西支部委員の交代報告
 - ・ 秋季研究発表会への参加登録、広告協賛について引続きの協力依頼
- ⑥ 西部支部（支部長 氏家理事）
 - ・ 第 61 回化学関連支部合同九州大会（共催）報告
2024 年 6 月 29 日（土）に北九州国際会議場にて開催された
 - ・ 2025 年 夏季セミナーについて（開催地：大分予定）
- ⑦ 研究委員会関係について
 - ・ 感性研究フォーラム
第 59 回「感性研究フォーラム」講演会 年間テーマ「ジェンダーと感性」
2024 年 8 月 7 日（水）PM オンライン開催
 - ・ 堅ろう度標準化研究委員会
第 2 回講演会 2024 年 9 月 18 日（水）PM ハイブリッド開催
 - ・ 繊維基礎科学研究委員会
秋季研究発表会にて特別セッションを実施予定
 - ・ 染色研究委員会
秋季研究発表会と同時開催にて「第 60 回染色化学討論会」を実施予定
 - ・ 若手研究委員会
秋季研究発表会にて特別セッションを実施予定（招待講演のみ 10 件）
- ⑧ ATC-17 開催について
 - ・ 会場：Feng Chia University, 台湾・台中
 - ・ 会期：December 17-19, 2024
 - ・ FAPTA メンバーより Keynote Speaker を選出する件については、執行部で検討。

6) 各委員会からの報告等について

① 運営委員会

- ・ 運営委員委嘱完了
- ・ 支部・研究委員会共催・協賛行事について・・・<資料 6>

通常総会での「感覚と計測研究委員会」への指摘について、資料 6 を元に村瀬副会長より説明がなされた。感覚と計測研究委員会開催行事報告で、「共催」との記載があったにも関わらず、繊維学会 HP で会告の掲載がなかったこと、日本繊維機械学会の会告で「共催」の記載がなかったことなど、虚偽の報告では無いか、繊維学会からの支援金が講師謝金や交通費に支出されているのであれば返金を求めるべきなどの指摘があり調査したところ、2023 年だけでなく、2022 年度、2021 年度、2017 年度も同様の状況であった。多年にわたって、同様の状況が続いていたことが判明しことから、当該研究委員会の現委員長に伺ったところ、「共催として開催していたが、手続き上の落ち度で会告

等の掲載が抜けていた」として詫び文をいただいた。現在は、委員長からのお詫びと共に、共催であったことを記載した修正会告を繊維学会 HP に掲載している。日本繊維機械学会側でも、共催と記載した会告に差替えを行い、理事会判断で今後何らかの対応が検討されていると伺っていること、説明がなされた。また、今年度行事については、テキスタイルカレッジとの共催は中止する。ただ、繊維学会には協賛・共催に関する規定がなかったこと、委員長からお詫び文書で対応いただいていること、手続き上の不備であったことの説明もいただいていること、本年度の補助金も返納予定ということから、執行部としては本件をこれで収めたいと考えている。また、会告で会員への周知を考えたとき、支部や他の研究委員会活動でも同様の抜けがあったことも今回の調査から判明している。歴代理事会の監督体制にも問題があったことは反省すべき点であり、ガバナンスの整備を進めることと同時に、今後、協賛・共催規定の作成にも取り組んでいくことが村瀬副会長より説明された。

【本件対応に関する理事からの意見】

・総会での質問に関しては、答える義務があるが、質問に対して全会員にわかるようなように回答するのか？

・日本繊維機械学会 HP 上にある今までのテキスタイルカレッジ全ての会告が改変されているが、事実としては「共催」を知らせずに開催していたにも関わらず、それを後出しジャンケンのように変えてしまうことに問題はないのか。信用を落とすことになるのではないのか？ 詫び文だけの対応で良かったにも関わらず、「間違ってしまった」と言いたいがために、PDF 全てを変えてしまっていることについて言い訳にしか見えない。

・会員から指摘のあった資金流用についても「資金流用ではない」という明確な説明が詫び文からは読み取れない。また、会告を掲載していたら参加した繊維学会員がいたかもしれないが、そのチャンスを奪っていることには違いがないので、今回は、PDF は変えずに詫び文だけを掲載する対応がよいのではないのか。

・結果として、会員へ会告されていなかったのは事実で、過去のことを共催していたように変えてしまうことに問題がある。詫び文で「繊維学会からの参加者はいませんでした」として書いているが、会告を掲載していないから参加者がいなかったのは当然ではないのか？

・総会で出された質問に関する回答の対応と、研究委員会に対する対応は別では。

・共催として会告が出されていなかった年については（会員へのサービスをしていないので）、繊維学会からは本来支出すべきではないので、その金額を（内部資料でもいいので）明確に示す資料作成の必要がある。

→ 執行部としては、繊維学会の会員、感覚と計測研究委員会委員長としての立場で、日本繊維機械学会と共催で準備していただいていたと理解している。また、実態がどうであったかについては、我々では判断しかねる状況であるが、分野の振興のため、講師を選んでいただくなど、共催の形で企画していただいていたと考える。

【結論】大変重い事案であるが、今後の対応については執行部に一任いただき引き続き検討を進めていく。また、会員への説明としては、この案件だけではなく、ガバナンスを利かした対応をすることや規定の整備など含め、共催・協賛のあり方についても会長名で文章を出すなど早急な対応を検討する。なお、本件については次回の理事会で進捗

を報告すると共に審議いただくこととさせていただきたい。急ぎ対応する必要もあることから、それ以前にメール審議とさせていただくかもしれないことをご了承いただきたい。本件に関連して、支部・研究委員会行事についても引き続き調査を進め、会員への案内漏れがないよう徹底して対策し対応していく。

② 企画委員会

・2024・2025年度企画委員会メンバー（21名）への委嘱完了

③ 国際連携委員会

・ISF2024国際シンポジウムでのSpecial Session 3は順調に準備が進んでおり講師として日本から3名、シンガポール、インドネシア、タイを予定

・国際ネットワーク作りの再構築

④ 将来構想委員会

・委員会を組織中であること、村瀬副会長より報告された。

7) 支部長・研究委員長会議について

・6月末までに本年度の本部支援金支給完了

・スマートテキスタイル研究会 運営委員が奥林前副会長から村瀬副会長へ交代

8) 編集委員会の報告

① 繊維学会誌

・発行準備は順調に進んでおり、内田編集委員長より協力のお礼が伝えられた。

・80周年記念特集号についての準備状況についても報告がなされた。

② 論文誌 JFST

・武野編集委員長より委員長交代のご挨拶

・発行準備も順調に進んでいることについて協力のお礼が伝えられた。

・ATC-16同様にISF2024特集号の準備をする予定

9) その他案件

① 学会運営組織図について・・・<資料7>

・辻井会長より学会の運営組織図について案が共有され、今後の運営方法について説明がなされた。

② 役員選考について

・次期の会長選挙にあたり、過去の通常総会や理事からも会長選挙についての意見があったことを踏まえ、より多くの一般会員の声を反映させる意味でも、現在の会長候補者選考方法を変え、会員による会長選挙を実施してはどうか。既に会員による会長選挙を実施している学会もある。方法については、今後検討していくとして本件についてどう考えるか。

【理事意見】

・一般会員の声を聞かない選択肢はないので、ぜひ、会長選挙を実施する方向で検討してはどうか。運用方法は今後考えていくとして、選挙を実施することに賛成。

・会員に直接意思表示をいただくことは重要。

・高分子学会のように選考委員会を発足し、選挙管理委員会を作って運用するのがよいのではないか。投票システムにも費用がかかることも考えられるので、その辺りも含めて会長選挙の実施方法等今後議論してはどうか。

→ 次回理事会で、本件に関するたたき台を作成し、執行部より提案する事とした。

③ 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・<資料 8>

辻井会長、事務局より資料 8 の掲載予定担当者への協力依頼を行なった。

④ 今後の理事会日程について

2024 年 9 月 7 日（土）オンライン開催

2024 年 11 月 16 日（土）10:00-12:30 オンライン開催

*この日の理事会に限り午前中開催、午後は高校生セッションを開催で了解頂いた。

2025 年 1 月 25 日（土）対面開催（東京）*当初の日程から変更あり

2025 年 3 月 22 日（土）オンライン開催

【学会賞選考委員会】

2025 年 2 月 15 日（土）オンライン開催（東京）

【監査委員会】

2025 年 4 月 26 日（土）対面開催（東京）

⑤ 新理事の法人役員登記手続きについて

無事に完了したこと事務局より報告

⑥ 今後の学会行事担当について

*2027 年 6 月年次大会 別会場手配について検討する必要あり

	2024 年	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年
年次大会	関東支部	関東支部 実行委員長・道信理事	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	中止	西部支部 実行委員長・氏家理事	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部
秋季研究発表会	関西支部	東北・北海道支部 実行委員長・松葉理事	関西支部	関西支部	関西支部

⑦ 新任理事である永田理事、上高原理事、増森理事、巽理事、氏家理事より一言ご挨拶いただいた。

4. 監事コメント

【大田監事】

新会長から新たな方針が示されたように、理事の皆様には出身母体の代表ではなく、繊維学会の一員として協力し、法令や定款に基づきしっかりと理事会運営を進めていただきたい。特に、研究委員会の対応については次回の審議事項（議題）としてしっかりと対応を検討いただきたい。法人法でもあるように、善管注意義務をしっかりと意識して進めてください。

【土田監事】

正会員数が再び 1000 名を超えたことを大変嬉しく思っている。一つの明るい話題である。また、三学会合併の検討 WG では、資料から様々な皆様に努力いただき、ご協力のもと検討していただいていること改めて感謝申し上げます。特に、前回の合併協議で会員から指摘いただいた点、懸念事項とされていたことなど、会員の皆様へ常に情報を提供して、不透明のないよう対応をお願いします。

【小原監事】

秋季研究発表会の高校生セッションについては大変素晴らしい取り組みだと思う。特に、高校生に最近「探究」の科目が増えたが、十分な教員が足りていないと聞いている。高校

生セッションを通じて、繊維学を認知していただく良い機会にもなり、高校生がリサーチしたことに対する、的確な助言が行える場を提供できるのは素晴らしいと考えます。合併検討については、「他の二学会の情報を既に知っているだろう」ではなく、比較表などで現在の収支状況や学会規模などの情報を開示し、検討、議論する材料にしてほしい。また会員へしっかりと説明し、理解していただくために必要な情報提供を宜しくお願いします。また、協賛や共催のあり方もしっかりと考え、注意義務とともに再発防止にも努めていただきたいと思います。

第 710 回理事会 議事録署名人捺印

議長: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印